

## Part2 省エネ住宅のメリットとデメリット

今回は省エネ住宅のメリットとデメリットについてお話させていただきます。

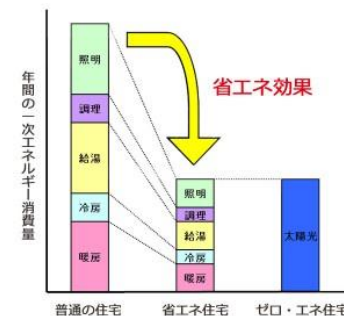
### ☆ 省エネ住宅にするメリット

#### ① 毎月の光熱費が安い

まず、省エネ住宅はエネルギー消費が少なくなるように設計されているため、光熱費は安くなります。冷暖房機器を使わずに自然エネルギーを使うので、エネルギー消費量が少ないのです。

築年数が経っている住宅は断熱性能が低いものも多く、真夏や真冬については光熱費が省エネ住宅に比べると高めになります。

省エネ性能の高い住宅にするには、通常の住宅より初期投資は必要ですが、光熱費の削減で将来的には上がった費用を相殺することも可能といえるでしょう。



## ② 暮らしの品質が上がる

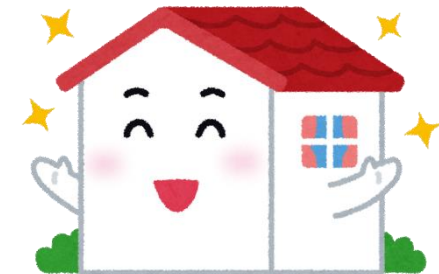
住宅の省エネ化とは、建物を高性能にすることでもあります。  
高気密高断熱による部屋間の温度差の低減や、計画的な換気によるきれいな空気は、日々の暮らしを快適にし、暮らしの品質そのものを上げてくれます。

## ③ 建物にとっても健康的

建物を長く維持し快適に暮らしていくためには、建物にとっても良い環境であることが大切です。

省エネ住宅は、計画的に行う換気により、結露やカビが発生がしにくいいため、**構造部材の腐食による劣化**も抑えてくれます。

省エネ住宅は、環境や住む人だけでなく、建物にとっても優しい住宅ということになるのです。



## ☆ 省エネ住宅にするデメリットはコスト

省エネ住宅は従来の住宅と比べ、建物に使う材料や設備が高性能なものになるため、建築コストが15%前後は高くなります。

2020年には省エネ基準が義務化されるため、将来的には強制的な費用となるものの、現在は検討できる段階にあるため、弊社ではどのような省エネ方法で、どのくらいの性能のものを採用しているかをお客様にしっかりとお知らせした上で、お客様にとって必要かどうか検討していただく材料を提供していきます。

省エネ住宅はコストの面でデメリットはあるものの、環境やエネルギー問題の改善だけでなく、住む側にもメリットが多い住宅なのです。

今回は省エネ住宅に必要な要素についてお話いたします。